

## ➤ 18日 木曜

### 列王 I

8:1 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムのソロモン王のもとに召集した。ダビデの町シオンから【主】の契約の箱を運び上げるためであった。

8:2 イスラエルのすべての人々は、エタニムの月、すなわち第七の新月の祭りにソロモン王のもとに集まった。

8:3 イスラエルの長老全員が到着すると、祭司たちは箱を担ぎ、

8:4 【主】の箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。

8:5 ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、ともに箱の前に行き、羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。

8:6 祭司たちは、【主】の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。

8:7 ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げるのである。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。

8:8 その担ぎ棒は長かったので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。

8:9 箱の中には、二枚の石の板のほかには何も入っていなかった。これは、イスラエルの子らがエジプトの地から出て来たとき、

【主】が彼らと契約を結ばれた際に、モーセ



がホレブでそこに納めたものである。

8:10 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。

8:11 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。

48 節以降は聖所の用具であり、主の尊さを表すために金製です。高価なものですが、主の栄光のためには、惜しまずに良いものを用いることが必要なのです。

神殿は建物と設備ができて、それだけでは不十分です。主がおられなくては意味がありません。ソロモンは主の臨在を表す、「契約の箱」を運び入れ、また主とお会いするための「聖なる用具」を運び入れ、そして聖なる主をお迎えするために、罪の赦しをいただくための「いけにえ」をささげたのです。

主の恵をいただくためには、主をお迎えしなくてはなりません。礼拝、家庭、職場、学校、人生において尊いものをささげつつ、イエス様の十字架という「いけにえ」によって、主のもとへと近づきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

